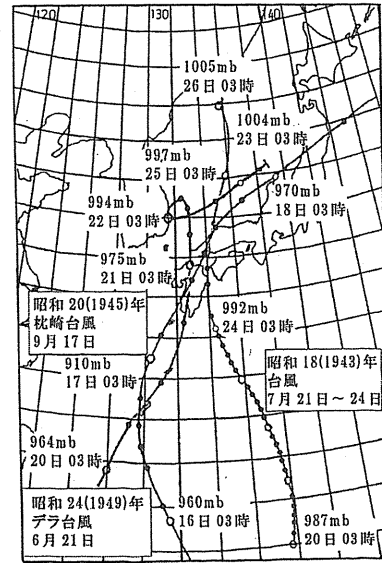


なお、これまでの最早開花日は三月一日(二〇〇二年・一九九〇年・一九八九年)。最晩開花日は四月二日(一九八八年)に記録している。

五 気象災害

南予において、過去に大きな被害をもたらした気象災害は次の台風による三事例があげられる。第三回は、この三事例の各台風の経路及び中心気圧を示す。一般に台風が県の西側の経路をとるとき影響が強まる。被害状況は愛媛県内のものである。

注：本文の台風示度はミリ(水銀)位で記述してあるが、経路図はmbで示している。



第3図 南予に被害をもたらせた台風経路

であったかがわかる。肱川のの上流では七〇〇mmから八〇〇mmの降雨があり、大洲における水位は二三日二六尺、二四日には二八尺となり、大洲盆地は一大湖水と化し、街は水中に浮かび、舟によって救援を行なったとある。「荒れる肱川」より。

被害状況  
死者一四名、負傷者二七名、行方不明二〇名、家屋全壊一、二二三戸、同半壊一、四五三戸、同流失九一戸、同床上浸水二七、〇二〇戸、道路損壊二、〇二カ所、堤防決壊一、〇七四カ所、橋梁流失三八七カ所、田畑流失五、八九六町歩、田畑浸水一八、二九〇町歩、船舶流失八八隻、米流失一、三九二俵、米浸水三、〇八五俵、木材流失九、三三九石、護岸損壊三六件、塩田浸水四町歩。

(二) 昭和二〇年(一九四五年) 枕崎台風(九月一七日)

この台風は一七日九州南部枕崎付近に上陸し、枕崎での最低気圧は六八七・五mm(水銀柱)で極めて猛烈なものであり、台風中心の気圧示度、中心付近の風速及び被害状況等いずれも昭和九年の室戸台風に優るとも劣らぬ顕著なもので、枕崎台風と命名された。

台風は二日サイパン島の東方海上に発生した模様で、以後西に進み同日二時ごろサイパン、グアム島の間の中央を通過するにおよび、中心示度も七五二mmと推定され、その位置も正確になった。

一七日六時には沖繩本島の南東約一五〇kmの海上に達し、中心示度も七二〇mm以下となった。ここから北北東に転向し、同一四時には九州南端に達し、枕崎付近に上陸した。その後九州の東部を通り、同一八時には愛媛県の北西端を経てここより向きを北東に変え、一八日六時には能登半島の東方に去った。

一七日サイパン島付近に発生し、発達しながら二一日には四国南方八百kmの洋上に達し、中心示度も七四〇mm(水銀柱)位となる。二二日一八時には室戸岬南約五〇〇kmの海上に達し、勢力はやや衰えて七四四mm、二三日頃まではほとんど停滞気味で、二四日に七四八mmと衰え、豊後水道を北上して日本海に出た。

日本の南岸に停滞した不連続線の活動により、九州東海岸、四国及び中国地方では二一日〜二四日にかけて降雨連続し、記録的豪雨となった。特に愛媛県では降雨激しく、肱川その他河川が氾濫して大災害を受け惨状を呈した。

県下の降雨状況(1943.7.21~24) 単位:(mm)

観測所名	21日	22日	23日	24日	総降水量
城 辺	58	475	235	102	870
宇和島	125	346	362	109	942
宇和町	139	226	228	153	746
八幡浜	182	297	欠	欠	洪水の為
大 洲	147	欠	欠	欠	洪水の為
野 村	210	290	240	165	905
中 津	190	360	241	110	901
松 山	157	227	88	68	540
波止浜	135	111	55	30	331
西 条	52	127	115	93	387
多喜浜	84	145	114	32	375
三 島	41	108	99	52	300
千足山	120	336	215	136	807

当時の気象(1945年9月17日) 風速単位:m/s

観測所名	最低気圧 (mmHg)	同 左		最大風速		同 左	総降水量 (mm)
		起	時	同	風向		
松 山	723.5	17日	21時	24.8	SSE	17日	120
宇和島	721.7	17日	19時	20.0	SE	17日	178
波止浜	725.2	17日	22時	16.0	NE	17日	138
佐田岬	-	-	-	50.0	ESE	-	-

愛媛県でも一七日全般に暴風雨となり、一六日・一七日の総降水量は島嶼部でも一〇〇mm内外、東予の平坦部で二五〇mm、山岳部で八百mmに達し、県下全般に被害甚大で記録的なものであった。

被害状況  
死者一五九名、負傷者三二八名、行方不明二三名、家屋全壊一、六五五戸、非住家五、五八八戸、同流失住家三五八戸、非住家五三二戸、同床上浸水住家九二二戸、非住家一戸、床下浸水住家一四、〇一五戸、非住家六二五戸、橋梁流失二五四カ所、堤防決壊二四五カ所、田畑流失七〇一町歩、同浸水三、五五二町歩(昭和三三年版

愛媛県統計年鑑にこの年の船舶被害、六八二隻とあり、主として本台風によるものと思われる。

(三) 昭和二十四年(一九四九年) デラ台風(六月二日)

この台風は二三日頃カロリン群島付近に発生し、一九日九時には沖繩の南四〇〇kmの海上に達した。ここで北北東に転向すると同時に毎時六〇kmの速い速度で進み、二〇日三時には沖繩を通り、同日二二時三〇分薩摩半島南端に上陸した。その後は九州中央部を北上し、二二日六時には玄界灘に入り日本海に抜けた。

このため四国は大

当時の気象(1949年6月21日) 風速単位: m/s

観測所名	最低気圧 (mb)	同 左 起 時	最大風速 同 風向	同 左 起 時	総降水量 (mm)
松 山	987.3	21日 4時	17.6 S	21日 6時	115
宇和島	988.2	21日 3時	18.8 S	21日 4時	136
波止浜	988.4	21日 4時	21.0 NNE	21日 2時	142
佐田岬	972.6	21日	38.5 SE	21日	-

暴風に見舞われた。愛媛県では総降水量は一〇〇〜二〇〇mmの範囲で台風としてはむしろ少ないようであったが、風力が強く海上及び沿岸地方で大災害を受けた。海上での災害が特に大きくなったのは、この台風が時速六〇kmという超速度で接近したことによる。

被害状況

死者四六名、負傷者二一九名、行方不明一八八名、家屋全壊一八戸、同半壊五三戸、床下浸水六二戸、田畑流失埋没二二町歩、同冠水二二〇町歩、橋梁流失破損三六カ所、堤防決壊破損七一三カ所、道路損壊八八一カ所、港湾損壊六二カ所、山林崩壊一七町歩、船舶沈没八四九隻、同破損八〇六隻、愛媛県の土木農林水産被害額一五億円。

特別記事

日振島の惨事

被害状況中にもあるように、愛媛県では一、六五五隻の漁船が遭難し、八四九隻が沈没し、八〇六隻が破損して死者四六名、行方不明一八八名、重傷三七名、軽傷一九二名に及んだが、このような多数の漁船の遭難は愛媛県はもろろんのこと、四国地方としても未曾有のことである。これが宇和海に主として起きたため南予地方の漁村は壊滅的打撃を受けた。そのうち特に悲惨であったのは、宇和海の日振島で、同島の鯛網発動機船七隻漁船四六隻(乗員三三八名)を引き船して、二〇日一八時西宇和郡三崎沖に出漁したが、二二日一時ごろ船と船をつないだロープが切れ、各船は散り散りとなって怒濤の中に消え去った。人命の損失は南予地方の被害の四分の一に及び、貧しいこの小漁村に深刻な打撃を与え、日振島の惨事として新聞のデラ台風被害記事を埋めた。

注：上記の資料は、愛媛県気象災害史(昭和三五年六月松山地方気象台編)から抜粋したものである。

(参考資料)

『宇和島の地理』愛媛県高等教育研究会社会地理部門共同調査報告(一九九〇年)

『愛媛の気象百年』松山地方気象台(一九九〇年)

六 地震・津波

宇和島市を含む愛媛県周辺の伊予灘から日向灘にかけては、M7クラスの地震がしばしば発生している地域で、地震予知連絡会が「特定観測地域」として指定している(次頁第4図参照)。また、第5図に西日本の主な地震の震源域分布を示す。

宇和島測候所で観測した震度四以上の地震(一九九二年〜二〇〇二年まで)は第六表の一〇例で以下の三つに大別できる。

(一) 南海トラフ沿いの海域に起こるM8クラスの巨大地震。

南海トラフ沿いの地震は、ユーラシアプレートの下にフィリピン海プレートが沈み込むとき、日本列島側の岩盤に歪みが蓄積され、それが限界を超えると岩盤の破壊等によって地震が発生すると考えられている。

歴史上の記録によると、このトラフ沿いの海域では一〇〇〜一五〇年間隔で起こっており、いずれもM8クラスの巨大地震である。

最近では昭和二十一年(一九四六年)二月二日四時一九分に紀伊半島沖を震源とする南海道地震(M8)が発生した。この地震により震度五以上の地域は中部地方から九州地方にかけての広範囲に及び、甚大な被害が発生した。特に高知県や和歌山県の沿岸域では四〜六mに達する津波が襲来し多くの犠牲者がた。

また、宇和海沿岸にも津波の襲来があり被害を受けている。

宇和島測候所では地震発生後約三〇分で津波の第一波が到達し、最大の津波は一・三mを観測している。

この地震により全国で、死者一、三二二人、行方不明百二人等の被害が発生した。

(二) 愛媛県及びその周辺に起こるM7クラス、又はM7以下でも浅い地震。

伊予灘を中心とした地震は、前述した海洋域の巨大地震より規模は小さく、M7クラス又はM7クラス以下であるが、震源が浅いことから局地的に大きな被害が発生することがある。

この種の地震としては次の二地震がある。

イ 平成一三年三月二四日(二〇〇一年) 芸予地震(M6.7)

この地震により広島県や愛媛県中予・東予を中心に死者二名、負傷者一八七名の犠牲者が出た。しかし、宇和島で震度五弱を観測したものの、南予では大きな被害は発生しなかった。

ロ 昭和四三年(一九六八年) 八月六日一時一七分に宇和島湾を震源とする地震(M6.6 深さ四〇km)

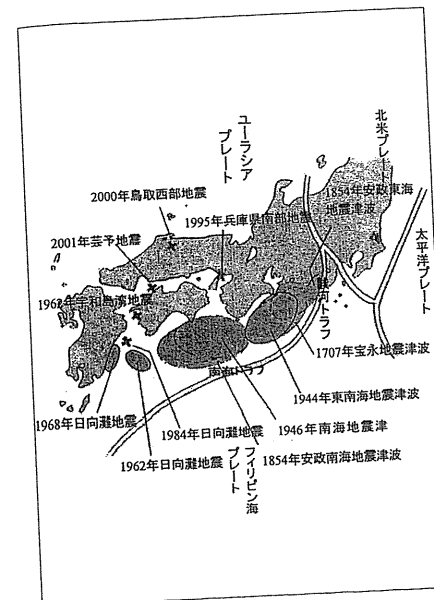
震度五以上の範囲は豊後水道を中心とした狭い地域で、被害は愛媛県で多発し、宇和島湾で重油タンク破損の被害があった。

(三) 日向灘周辺の海域で起こるM7クラスの地震。

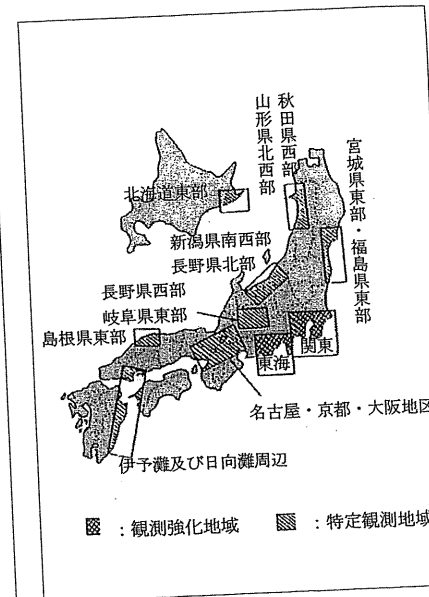
日向灘周辺では数十年毎にM7クラスの地震が発生している。

昭和四三年(一九六八年) 四月一日九時四二分に発生した足岬岬沖を震源域とする日向灘地震(M7.5 深さ三〇km)では、愛媛県南部中心に被害が発生した。

この地震による津波は宇和島に地震発生後三十分で到達し、宇和



第5図 西日本の主な地震



第4図 観測強化地域及び特定観測地域

第6表 宇和島測候所で震度4以上を観測した地震(1922~2002年)  
注: 1996年以降の震度は、震度5を5弱と5強に、震度6を6弱と6強に分け10段階

発震時 年月日時分	震 度	震央地名	北緯 ° , '	東経 ° , '	深さ km	規模 M	記事
1941 11/19 0146	4	宮崎県沖	32 6	132 1	0~20	7.4	
1946 12/21 0419	4	南海道沖	33 0	135 6	30	8.0	南海道地震
1961 02/27 0311	4	日向灘	31 36	131 51	40	7.0	
1968 04/01 0942	4	日向灘	32 17	132 32	30	7.5	
1968 08/06 0117	5	宇和島湾	33 18	132 23	40	6.6	
1983 08/26 0523	4	大分県北部	33 33	131 38	120	6.8	
1984 08/07 0406	4	日向灘	32 22	132 09	33	7.1	
1985 05/13 1941	4	愛媛県南西部	32 59	132 37	42	5.9	
1997 04/03 0647	4	南予地方	33 23	132 26	52	4.9	
2001 03/24 1527	5弱	安芸灘	34 07	132 43	51	6.7	芸予地震

島  
検  
潮  
所  
で  
は  
四  
六  
cm  
を  
記  
録  
し  
て  
い  
る。